

「愛顔（えがお）いっぱい 体育学習」を目指して

松山市立椿小学校 教諭 八塚 伝
(愛媛県小学校体育連盟 研究部長)

〈第 53 回中・四国小学校体育研究大会（愛媛大会）に向けて〉

松山市立椿小学校では、「えがおいっぱいの子ども」を育むために、体育学習を軸に日々研究実践を重ねています。また、その成果を次年度本校を会場として行われます「第 53 回中・四国小学校体育研究大会（愛媛大会）」でお伝えしたいと考えています。



そもそも、「中・四国小学校体育研究大会」とは、今年で 52 回を数え、貴連合が開催なさっている「全国学校体育研究大会」に次ぐ、半世紀に渡って続いている歴史のある研究大会です。実は、本校椿小学校は昭和 55 年開催の「第 18 回中・四国小学校体育研究大会」の会場校でもありました。よって、次年度は、現在の研究成果について提案するとともに、この 30 年あまりの中で体育学習がどのように進化し、またこれまでと変わらず基礎・基本を大切に指導してきているかについても、提案できればと考えています。

〈椿小学校の運動環境と体育館 ICT の活用〉

さて、本校は松山平野の南に位置している学校で、集合住宅と田園が混在している地域です。運動場は東西に広く、斜めに横断すれば 100m をゆったりと確保することができます。そして、運動場最大の特徴は 50m 砂場と大型遊具です。どちらも開校当時に作られ、今も大切に使っています。ただ、こうした体育環境を子どもたちのために考え、整備したのは当時の教師や保護者、そして地域の方々でした。この三者が手を取り合い、放課後や休日を利用し、時間をかけて整備したそうです。そうした先人の思いや願いを現在の教員・保護者、そして何より子どもたちが知り、改めて母校に対する気持ちを捉え直すことが、ひいては体育学習に対する前向きな気持ちにつながると思われました。そこで、昨年度は開校当時ご勤務されていた先生をお招きし、当時のエピソードや体育に対する思いを語っていただきました。今年度はこれらのことを、以前から行ってきた全校体力づくりに生かし、更なる子どもの体力向上や運動の日常化、そして前向きに運動を行うことができる素地づくりにつなげたいと考えています。

次に、体育館です。「体育館の教室化」をスローガンに、「体育館でも普段教室で行っている感覚で授業をしたい!」、「指導資料をもっと手軽に取り出せるようにしたい!」というニーズのもと、壁面に 4 台のディスプレイとノート PC を配備し、校内 LAN でネットワークを構築しています。それらは、校内サーバと連動していて、運動例示のための資料や子どもが前時に行った運動の様子を動画や静止画で蓄積することができます。この仕組みに、移動可能なデジタルカメラやタブレット端末等を組み合わせ、授業の中で生かしています。過年度の研究から、ICT を活用するメリットとして、第一に自分の

動きを自分で見るができること（可視化）が分かりました。また、指標となる動きと自分や友達の動きを見比べること（比較）ができることも分かりました。更には、活用場面について考えたとき、二つの場面に分類することができました。一つ目は、その場で直接指導に生かす方法（直接活用）です。デジタルカメラやウェブカメラ等を活用し、個や集団で活動する際、運動した様子について情報を活用してその場で振り返り、課題を見付けたり、成果を認め合ったりすることができました。その際、手本となる画像（動画・静止画）や今までに行った運動の様子の記録（動画・静止画）と比較し、より具体的に捉えられるようにしました。もう一つは、その場で得た情報を次時等に生かす方法（間接活用）です。集団スポーツ型の学習等、子どもの活動が課題や内容ごとに拡散する際、ウェブカメラやビデオカメラ等を活用し、全体記録を行いました。授業終了後、教師の授業評価として活用し、次時の展開を修正・改善しました。また、子どもの見取りの一助として活用し、次時の導入や学習カード等で子どもによかったところや課題となることを振り返らせるようにしました。また、各領域の指導のポイント（こつや注意点等）を、ICTを活用して視覚化したり、運動の様子（動画・静止画）と指導言葉（こつ等）を関連付けて掲示資料に生かしたりして指導しました。



<体育研究に関して>

本校は愛媛県小学校体育連盟と共同研究を行うとともに、愛媛大学教育学部日野克博先生に随時ご指導をいただきながら研究を進めています。共同研究を進める上で、欠かせない大切なつながりが愛媛県下統一の「研究の視点」です。具体的には、①仲間との豊かなかかわり、②教材との豊かなかかわり、③豊かなかかわりを支えるICTの活用です。この3本柱で校内、市内はもとより、県内で共通理解を図っています。メリットとして、同一領域の情報交換はもちろんのこと、他郡市や領域の枠を越えて、研究の視点に沿った協議を行い、具体的に考察することができます。また、領域の枠を越えて、身に付けた力がどのように転移しているかについても考察することができます。こうした体制を整え、様々な領域で研究実践を積み重ねていくことが体育学習の充実につながり、最終的には、自己の伸びを感じ、運動に喜びや楽しみを感じる「えがおいっぱいの子ども」の姿につながるだろうと考えています。

ぜひとも、多くの先生方に次年度本校にお越しいただきたいと願っています。その際は、どうぞご指導、ご助言をよろしくお願いいたします。